

ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 スピード・ストライカー	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.550	△RG 0.030	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：スピード・ストライカー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：マジョリティ・エース

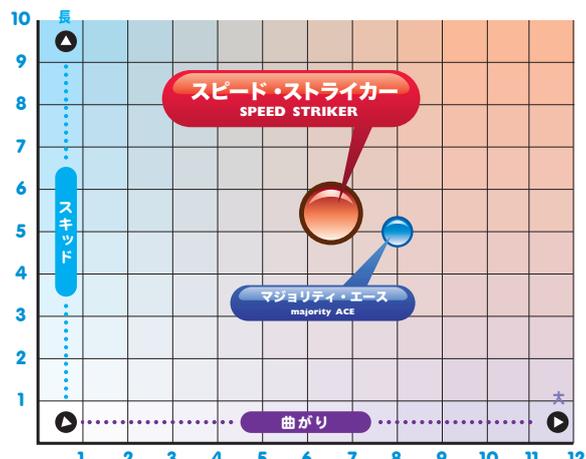
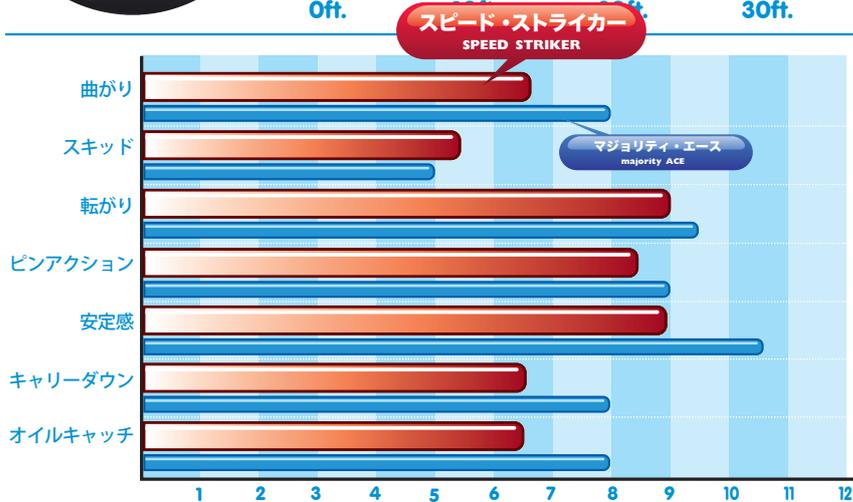
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

エリート・パフォーマー、フレックス・ゾーンに続き、新たなラインナップに加わった「スピード・ストライカー」。最大の特徴は、パールでもハイブリッドでもない、あえて「弱めのソリッドカバー素材」を採用した点にあります。近年は先までスムーズに走って、シャープに動くモデルが主流となっていますが、このスピード・ストライカーはトレンドとは一線を画し、あくまで「動きを抑えたコントロール性」を重視して開発されています。

実際に投げてみると、ソリッド特有のキャッチが抑えられており、手前の走りが非常に安定し、レーン全体において嘸み上がりのイメージがなく、扱いやすくミッドでの軸移動も非常にスムーズ。ブレイクポイントでの動きは控えめで、全体的に暴れず、ラインを安定させて投げるすることができます。特に印象的だったのが、オイルが枯れてきた場面や荒れたコンディション下でのラインの取りやすさ。ボールが過敏に反応することなく、手前で収まり、ピン前ではしなやかに寄ってくる動きが確認できました。

3種類を比較すると、エリート・パフォーマーは鋭い切れを持つ攻撃型、フレックス・ゾーンは万能型、そしてこのスピード・ストライカーは、レーンコンディションが難しくなった局面で真価を発揮する「守りの要」と言える存在。ラインナップにおいて、今までカバーしきれなかったゾーンを埋めてくれる、信頼できる1球です。

特記事項

コンディションに左右される要素を最小限に抑え、後半戦に安定したラインを求めるプレイヤーにとって、まさに“持っておきたい”ボールに仕上がっています。